

動詞「持つ」の一用法

— 会議を持つ —

高 橋 良 久

1965年に、藤原与一が「会議を持つ」のように、「持つ」が「行う」の意味で使用されることが目立ってきていると指摘している。しかし、こうした例は、「国会会議録」においては1947年に、「帝国議会議録」においてはその一年前の1946年に使用が確認できる。この用法は「第二次大戦後の言い方」と指摘する辞書があるが、この点からすると、用法の成立は、第二次世界大戦後の1945年よりも前である可能性が高いのではないかと、また、この意味は、国語辞書には、1990年頃から紹介されるようになったと見られる。この用法の成立については、英語の影響によるとする説があるが、定説とは言えない。「国会会議録」の用例を検討すると、「会議を以て」と「会議を持って」では、「会議において」と「会議を行って」のどちらの意味でも成立する例が存在する。つまり、助詞的用法の「を以て」と動詞を含む「を持って」の置き換えが可能なのである。このことが、「持つ」が「行う」の意味を獲得したことに大きく影響したと考えられないだろうか。

キーワード：会議を持つ、会議を開く、会議を行う

1. はじめに

以下の文章は、1965年9月発行の『一國語と文学の教室—ことばの歴史』（46頁・福村書店）に掲載されている方言学者藤原与一のものである。小学生の読者を想定して書かれている。

近ごろ、「会議を持つ」、「何々の研究会を持った」のような、「持つ」の言いかたがよくおこなわれるでしょう？ 先生がたが話しあわれるのを聞いてください。この「持つ」の言いかたは、四、五年このかた、しだいによくおこなわれるようになりました。さてこれが、こののち、どんなふうにごいていくものでしょう。

ここで藤原は、この「持つ」は「行う」の意味であり、このような「持つ」の新しい用法が目立ってきたと指摘するのである。そして、藤原は、「さてこれが、こののち、どんなふうにごいていくものでしょう」とこの用法が定着するかどうかに関心を示すものの、これで終わってしまう。

この文章が書かれてから約60年。藤原が関心を示した「こののち」はどうなったであろうか。本稿は、この「持つ」のその後を報告するものである。なお、この「持つ」は「行う」のほかに「開く」「開催する」などにも置き換えられるが、本稿では「行う」に統一

して述べる。

2. 先行研究など

国立国語研究所「日本語研究・日本語教育文献データ」の検索では、このような用法の「待つ」についての先行研究は探し出せなかった。ただ、次のような文献が検索できた⁽¹⁾。

- 1953年「会議の仕方—会議は如何に運ぶ可きか—」松本次雄オカムラ書店
- 1961年「講座 職員会議の持ち方(一)」大久保忠利「教育技術中学教育」
- 1961年「講座 職員会議の持ち方(二)」大久保忠利「教育技術中学教育」
- 1961年「講座 職員会議の持ち方(三)」大久保忠利「教育技術中学教育」
- 1961年「話し合い・座談会・会議の持ち方」三井為友「現代の話し方と文章2」講談社
- 1961年「職場の会議の開き方」野口音光「現代の話し方と文章4」講談社

これらの発行年とタイトルを見るに、藤原の指摘が1965年当時のあり方を把握していたといえそうである。1953年では「会議の仕方」とあるが、1961年には「会議の持ち方」とある。そしてそれは「開き方」でもあることから「行い方」の意味であることがわかる。ところで、インターネットの記事では、こうした

「持つ」をビジネス会話での専門用語とする見方がある。NHK 放送文化研究所『ことばウラ・オモテ』「もつ、いれる、うつ。」(2004年2月1日)がそれである⁽²⁾。該当箇所を以下に示す。なお下線は筆者が施した。

ビジネス会話では、独特の専門用語が飛び交うことがあります。

「飛び込み商談、稟議(りんぎ)、先着〇時、直帰、席はずし、立ち寄り、直納、アポ(アポイントメント)」など会社によっても異なったことばがあります。

名詞だけではなく、動詞にも一般社会とは異なった用語があり、それが一般化して誰も不思議に思わなくなったものもあります。

「会議を持つ」というのもそのひとつです。

「会議」は開くものであって、持ったり、置いたりできるはずはないのです。英語の直訳から発生したことばかもしれません。「会議を開く、会議がある。」などが普通の使い方です。

これからすると、2004年ごろにも「行う」の意味の「持つ」は使われている。また、この用法の成立について「英語の直訳から発生」か、ともあるが、この点については後に触れる。

3. 『日本国語大辞典』の記述

それでは、このような「持つ」は国語辞書ではどのように扱われているであろうか。まず、大型の国語辞書である『日本国語大辞典』(小学館)で確認してみる。『日本国語大辞典』は、いわゆる初版(1972年～1976年)と二版(2000年～2002年)とがあるが、結果を先に示せば、二版になってこの「行う」の意味が追加されるのである。

まず、初版の「持つ」について、用例は省略し、意味のみをあげる。なお、直接は関係しない自動詞の記述については省略する。

- ①自分の手の中に入れて保っている。手に取る。所持する。
- ②身につける。身に帯びる。携帯する。携行する。
- ③自分の物とする。所有する。
- ④そこなったり、変質したりしないようにして保つ。はじめの状態、また、よい状態で保つ。維持する。
- ⑤使う。用いる。
- ⑥考え、思い、幻影などを心にいだく。

- ⑦引き受ける。受け持つ。担当する。負担する。
- ⑧謡曲で、拍子を合わせるために、引き気味に長くうたう。
- ⑨物事が、ある性質や状態をその中に含む。

そして、第二版(2000年～2002年)において、このような初版の①～⑨に次のような⑩が追加される。なお、語釈については、⑥が「ある考え、気持ちなどを心にいだく」に変更されている。

- ⑩会合、催しなどの場を設ける。設定する。

「食事が終わってから、シンポジウムを持とうではありませんか」三浦朱門「セルロイドの塔」(1959)
灰色のノートを逆さに使って〈略〉自分だけのための記録「日曜礼拝とならんで抗議集会が持たれ」阿部公房「他人の顔」(1964)

この⑩は「設ける」「設定する」であり、「行う」ではない。しかし、用例を見るに、どちらも「設定する」だけではなく、つまりは、会合や催しが行われることの意味である。したがって、「設ける」「設定する」とあっても、「行う」と読み取って問題ない。というよりも、そのように読み取るべきものである。なお、以降、辞書で「持つ」の意味を見ていくが、これと同じように、「行う」という表現でなくても、「行う」の意味と判断できる場合は「行う」の意味と扱う。

⑩の意味は、初版(1972年～1976年)には記載されていないが、それは、初版の頃に使用されていなかったからではなく、取り上げるまでの勢力はなかったということであろうか。それが20年ほどの間に、看過できないようになってきたということであろう。初出例は1959年であり、藤原がこの用法を指摘した1965年よりも6年前に小説で用いられている。また、もう一例も、1965年の前年である1964年の小説である。「行う」の意味の「持つ」の使用は、どこまでさかのぼることができるのであろうか。

なお、国語辞書ではないが、『基礎日本語辞典』(1989年・角川書店)と『日本語基礎動詞用法辞典』(1989年・大修館書店)に「持つ」は立項されているが、「行う」の意味には触れていない。これらは、この時期においても取り上げるまでに浸透しているとの判断がなされなかったからであろうか。

4. 『広辞苑』の記述

本節では大型の辞書ではないが、版が重ねられ、記

述の変化が伺えるものとして、岩波書店の『広辞苑』を確認してみる。これも、結果を先に示せば、初版（1955年）には取り上げられないが、第四版（1991年）において、「それを行う」という意味が追加される。まずは、第一版について、用例を省略し、意味のみを示す。

【第一版】（1955年）

- ①手に執る。
- ②手にとって運ぶ。
- ③携帯する。
- ④保つ。維持する。
- ⑤長くその状態が続く。変わらない。
- ⑥自己のものにする。所有する。支配する。
- ⑦使う。用いる。
- ⑧受け持つ。担当する。
- ⑨心にいだく。
- ⑩支払いを負担する。
- ⑪生まれつき身にそなわっている。

第一版ではこのように11種類の意味が挙がっているが、ここに「行う」はない。第二版（1979年）では意味が9種類になり、第三版（1983年）では、意味分類に変更があるが、第二版（1979年）と同じように9種類である。しかしながら、ここまでに、「行う」に該当する意味はない。それが、第四版（1991年）において、第三版（1983年）の意味分類が変更され、九種類に変更はないものの、ここに、「⑧それを行う。」（用例「組合との交渉を一・つ」）が加えられたのである。なお第四版（1991年）では、これまでなかった自動詞の解説が加わった。そして、これ以降、自動詞の方には変更があるが、第五版（1998年）、第六版（2008年）、そして、最新の第七版（2018年）まで、他動詞の方には変更はない。『広辞苑』においては、「持つ」が「行う」の意味を獲得し、一般に認知されるまでになったと判断されているということになろう。

以上、『日本国語辞典』と『広辞苑』の確認からいえることは、藤原の指摘の時期から、「行う」の意味の「持つ」は衰退するのではなく、辞書に登録されるまでにその勢力を増していったということである。

5. 中型・机上版国語辞書の記述

本節では、国語辞書であるが、中型・机上版の現行通行のもので確認してみる。調査できた11点を、刊行の早い順に書名と「行う」の意味に該当する語釈があれば、それを示す。

- a 『大辞泉第二版』（2012年・小学館）⑧場などを設ける。設定する。
- b 『大辞林第四版』（2019年・三省堂）⑩（会合を）開く。
- c 『岩波国語辞典第8版』（2019年・岩波書店）③成り立たせる。有する。保つ。
- d 『三省堂国語辞典第七版』（2020年・三省堂）⑩開く。おこなう。
- e 『旺文社標準国語辞典第八版』（2020年・旺文社）⑧機会や場をもうける。
- f 『明鏡国語辞典第三版』（2021年・大修館）⑩場・機会・時間などを設ける。また、そのような機会を設けて話し合いを行う。
- g 『新明解国語辞典第八版』（2021年・三省堂）⑧（なにヲ）関係者が何らかの必要を満たすものとして、そのことを実現させる。
- h 『例解新国語辞典第十版』（2021年・三省堂）
- i 『学研現代新国語辞典改訂第六版』（2021年・学研プラス）
- j 『旺文社国語辞典第十二版』（2023年・旺文社）⑧（会議などを）行う。
- k 『見やすい現代国語辞典第二版』（2023年・三省堂）

上記の通り、11点中、「行う」の意味があるものは a～g・j の8点⁽³⁾、ないものは、h・i・k の3点である。中型、机上版の国語辞書においても「行う」の意味は紹介される傾向にあるといえよう。

6. 「会議を持つ」の実例

3節から5節までは、辞書における意味記述の有無を主に見てきたが、本節では、コーパス調査によって「持つ」が「行う」の意味で実際に使用されている例をいくつか報告する。

まず、国立国語研究所のデータベース6種類を用いて、「会議を持つ」で文字列検索した⁽⁴⁾。

結果、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」には9例あったが、他のコーパスは0であった。「現代日本語書き言葉均衡コーパス」9例の中で最も古いものは、(1)の1977年の「国会会議録」の例である。

- (1) 入試を改善していくための内輪の会であれ外輪の会であれ会議を持っていくわけですね。

実は、採集できた9例のうち4例が「国会会議録」のものであった。2節で触れたように、ビジネスの場であれば別であるが、日常会話においては、そもそも「会議」という単語自体の使用は少ないというか、ま

れであろうから、用例が採集しにくいのは当然といえよう。

そこで、「会議」の使用が期待できそうな「国会会議録検索システム」を用いて検索した⁽⁵⁾。「会議を持つ」の検索結果は1772件、該当箇所1935例であった。ただし、その中には、「行う」の意味ではない以下のような例も含まれている。

- (2) 只今厚生省の医務局次長心得をしておられます久下事務官がご出席であります、特別の会議を持っておられますので、この久下事務官について特別に御質問のある方は時間の関係上御発言をお願いしたいと思います。

〔第1回国会 参議院 在外同胞引揚問題に関する特別委員会 第9号 昭和22(1947)年10月14日 矢野西雄〕

- (3) 給与関係閣僚関係会議を持ち回りとすべき要件を定めた根拠規定をお教えてください。

〔第212回国会 衆議院 内閣委員会 第3号 阿部司 令和5(2023)年11月10日〕

(2)の「会議を持つ」は「出席する会議が控えている」の意味であり、「会議に出席する」ということである。また、(3)は「会議を持つ」で検索したので、「持ち回り」のような「持つ」ではない語も含まれてしまうという例である。このように、「行う」の意味ではないものや他の語であるものを目視で確認したところ、22例あった。したがって、「行う」の意味である「持つ」の例は1913例である。この中で最も古いのが次の例である。

- (4) …、又監督鞭撻しつつ生産を挙げているだけではなく、全国的に石炭復興会議を持つて誰よりも先に増産を叫びましたのは労働者、労働組合、…。

〔第1回国会 参議院 本会議 昭和22(1947)年8月8日 中西巧〕

ここでは、「会議を持つ」で検索したのであるが、「持つ」の目的語は「会議」でなくても講習会、研究会、研修会などの「会」あるいは「シンポジウム」でもよい。したがって、そのような例も加えれば、「国会会議録」における「行う」の意味の「持つ」は、さらに数が増えるであろう。

藤原が「会議を持つ」を取り上げたのが1965年。しかし、(4)のように、「国会会議録」においては、それよりも20年ほど前にその使用例があり、その後も「持つ」の使用は毎年確認できるのである。

なお、5で資料としたc『岩波国語辞典第8版』の「③成り立たせる。有する。保つ。」には注のかたちで「▽第二次大戦後の言い方」とある。第二次世界大戦

後とは、1945年以降ということになる。実は、「国会会議」の前である「帝国議会」においても「行う」の意味の「持つ」が確認できる。「帝国議会会議録検索システム」において確認できた古い例は、「国会会議録」での古い例(4)の1年前のものである⁽⁶⁾。

- (5) …、少なくとも一箇月に一回位は其の問題に付て協議會を待つやうにして行きたい、斯う云ふ風なことも考へて居りますけれども、…。

〔衆議院 生活保護法案委員会 昭和21(1946)年8月8日 山崎(道)委員〕

こうしたことから、「会議を持つ」については、「第二次大戦後の言い方」という指摘は当てはまりそうであるが、たとえそうであったとしても、はたして「第二次大戦後の言い方」と言い切れるであろうか。この時期から使用が目立ってきたということで、この時期以前から使用されていた可能性はないのであろうか。「会議」以外の「関係」「国交」「交渉」を目的語とする「持つ」については、これに触れた報告は見当たらないのであるが、これらも同じように「第二次大戦後の言い方」なのであろうか。

7. 用法の成立 I

仮に、「持つ」が「行う」の意味で用いられるようになったのが第二次世界大戦後とすれば、この意味は「持つ」の意味の中では新しいものといえる。こうした用法はどのようにして生まれたのであろうか。この点に触れるものはいくつかある。その中で一番詳しいのは、『国語慣用句大辞典』(1977年・東京堂出版)である。そこには、「会議を持つ」が立項され、以下のようにある(95頁)。

「会議を持つ」

会議を開く。「持つ」の多義的な使い方から、英語の hold a meeting の言い方などの影響を受けて生じたか。また、英語の have や漢語の「有」の使い方などの類推か。

ここでは、用法の成立には英語が関わると見ているが、断定はしていない。2節で紹介したNHK放送文化研究所の説明文でも「英語の直訳から発生か」として断定はしていない。しかし、5節で資料としたd『三省堂国語辞典第七版』では「〔英語 hold の訳から〕」とある。断定できるだけの根拠がどこにあるのだろうか。また、b『大辞林第四版』には「〔翻訳調の言い方〕」とあるが、これも根拠の所在が明らかではない。

「会議を持つ」という表現の成立は、そもそも「会議」

という語と関わるわけである。『日本国語大辞典第二版』の「会議」の「語誌」には、「会議」は1868年の「五箇条の御誓文」に用いられたことをきっかけとして急速に普及した語という説明がある。そうした流れの中で「会議を持つ」という表現が成立したことになる。したがって、成立に関わるのが「英語の影響」、あるいは、「訳語」という見方は、時期的に見て確かに納得しやすいものではあるが、残念ながら、この点を追跡したものは見当たらないのが現状なのである。

8. 用法の成立Ⅱ

前節では、「会議を持つ」の成立には英語が関わるとする説を紹介したが、本節では他の可能性を指摘したい。

これまで「会議を持つ」の「持つ」は、このような漢字表記を見てきたが、「国会会議録」において「会議をもって」とひらがな表記の「もって」も94例採集できる⁽⁷⁾。

- (6) …、すべては財務構造改革会議をもって決定すべきことと考えておりますというふうに申し上げるべきだったと…。

〔第142回国会 衆議院 予算委員会 第31号 平成10（1998）年4月13日 橋本龍太郎〕

上記の例は「財政構造改革会議を行って」と読み取れるが、次の例はそうとは読み取れない。

- (7) ことしの十一月に岡山市や愛知県で開かれる世界会議をもって、ESDの十年というキャンペーンはひとまず区切を迎えますが、…。

〔第186回国会 衆議院 環境委員会 第5号 平成26（2014）年4月8日 小倉将信〕

この例であると、「愛知県で開かれる世界会議を行って」ではなく「世界会議で」の意味である。この「もって」は、「をもって」で「期限」を表す助詞的用法といえるものである。「をもって」は、「期限」以外にも、「道具や手段」、「根拠」などを表す。そうすると、(6)の「財務構造改革会議をもって」も「財務構造改革会議を行って」ではなく「財務構造改革会議において」という読み取りもできる。実は、「もって」と表記される94例を見るに、「行う」と動詞でも助詞的用法でも解釈できるものもあるが、助詞的用法でしか解釈できないものが多い。ということは、「もって」とひらがな表記されるものは、主として助詞的用法のものであることであろう。「国会会議録」においては、「行う」であれば「持つて」と漢字表記、助詞的用法であれば「もって」とひらがな表記というように、意味によって書き分けがなされているようである。

また、こうした助詞的用法「もって」は「以て」とも表記される。「国会会議録」では「会議を以て」は9例確認できる⁽⁸⁾。

- (8) …、せめて国会に代るべき最高の権威を持った少数の国防会議を以て、これの同意を得てやるだけの余裕はあるのじゃないか。

〔第19回国会 衆議院 内閣委員会 第43号 昭和29（1954）年5月25日 八木幸吉〕

ただし、「会議を以て」はこの(8)が一番新しい例である。これ以後は、「もって」とひらがな表記に統一されたようである。

ところで、「持つて」「もって」「以て」に触れてきたのは、次のような例を見てもらいたかったからである。次の例は、「を持つて」「をもって」「を以て」のどれもが「検討する」に係る例である。

◆「を持つて検討」

- (9) …、その問題については近く会議を持つて検討しよう、そういう提案もやっていることは御承知のとおりでありますし、…。

〔第46回国会 衆議院 内閣委員会 昭和39（1964）年5月28日 角屋堅次郎〕

- (10) …、昨年来関係次官会議を持つて検討いたしました結果、…。

〔第48回国会 衆議院 本会議 昭和40（1965）年1月28日 石田博英〕

- (11) …、この問題をどうするかということで、国連の海底平和利用委員会が拡大会議を持つて検討するということなのでございますので、…。

〔第65回国会 衆議院 内閣委員会 昭和46（1971）年2月23日 石倉秀次〕

- (12) …、文部省と農林省の間でいろいろ去年も五回ほど会議を持つて検討するというようなことのでございますので、…。

〔第68回国会 衆議院 農林水産委員会 昭和47（1972）年5月17日 内村良英〕

◆「をもって検討」

- (13) これをどうしたら排除することができようかということを再々専門家会議をもって検討してきたのですね。

〔第40回国会 衆議院 商工委員会 昭和37（1962）年4月4日 板川正吾〕

- (14) その後政府は関係次官会議をもって検討に当たっておったことは事実でございますが、…。

〔第47回国会 衆議院 社会労働委員会 昭和39（1964）年12月16日 石田博英〕

- (15) 著作権者に支払うかというような問題につきまして、文部省と関係者との合同の会議をもって検討を進めてまいっております。
〔第55回国会 衆議院 文教委員会 昭和42(1967)年5月11日 蒲生芳郎〕
- (16) でこの琵琶湖総合開発に関します連絡会議を設けまして、数次にわたりその会議をもって検討を進めてまいっております。
〔第68回国会 衆議院 予算委員会第五分科会 昭和47(1967)年3月18日 朝日邦夫〕
- (17) …、専門会議をもって検討をしていただいております。
〔第93回国会 衆議院 地方行政委員会 昭和55(1980)年11月7日 原敏治〕

◆「を以て検討」

- (18) …、こういう問題をこの小委員会を以てそうして而もこれを能率的に運用して検討していただく、…。
〔第10回国会 予算委員会 昭和26(1951)年3月23日 内村清次〕
- (19) 遺族援護対策の根本的なご検討は、今の恩給法の復活についての、恩給法関係の審議会を以て検討なさるお考えでしょうか。
〔第13回国会 参議院 厚生委員会 昭和27(1952)年2月28日 山下義信〕

「国会会議録」においては、「持つて」であれば動詞の意味、「もって」「以て」であれば助詞的用法と表記の書き分けがなされているようであると推測した。しかし、これらのような「もって」「以て」「持つて」はどれも動詞でも助詞的用法でも意味を成すものである。

こうしたことから、ここで指摘したいのは、「持つ」が「行う」の意味を担うようになるのには、「を以て」の存在が影響していたのではないかということである。

「会議をもって」の「もって」は、「を以て」と理解されていた。「を以て」は古くから用いられてきた語である⁽⁹⁾。しかし、それが、「カイギヲモッテ」と耳にしたとき、「ヲモッテ」は「を持って」と動詞で受け取られるようになった。意味は、「会議を行って」である。それを可能にしたのは、「持つ」には、すでに「所有する」という意味があったからである⁽¹⁰⁾。会議を「所有する」のであれば、その会議は「行う」と理解されるに至ったと見るのである。これは、例えば、「車を所有する」のであれば、その所有者はその車を「運転している」であろう、「本を所有する」のであれば、その所有者はその本を「読んでいる」であろうと

結びつくのと同様の仕組みである。

そして、「行う」の意味が定着できたのには、「会議を以て」の意味である「会議において」と「会議を持つて」の意味である「会議を行って」の置き換え可能な場合があることが大きいのではないだろうか⁽¹¹⁾。このような場合、音声での「カイギヲモッテ」は「会議を以て」でも「会議を持つて」でも理解できるのである。それゆえ、たとえ「会議を以て」で使用されたものであっても「会議を持つて」と理解されることも起きる。こうしたことが増えていくと、「行う」の意味である「持つ」は勢いを得ていく。そしてその存在を確かなものにしていく。「会議を以て」という表現が存在しなかったのならば、「会議を持つて」という表現がどれほど受け入れられたであろうか。「を以て」の存在が「を持って」の成立には欠かせないと見る理由である。「持つ」を「行う」の意味で用いるのは英訳から始まったとしても、「持つ」が「行う」の意味を獲得し得た背景には、「を以て」の存在が大きく関わったのではないだろうか。

なお、「国会会議録」において、「もって」「以て」「持つて」と書き分けられているものの、それは、文字化する際の表記者の判断であり、話し手の判断ではない。言い換えれば、「国会会議録」における「会議を持つて」の中には「会議を以て」の意味で使われたもの、また、「会議を以て」の中には「会議を持つて」の意味で使われたものがあるということがいえよう。

9. おわりに

本稿で述べてきたことをまとめる。

- 1 国語辞書において、「持つ」の項で「行う」の意味が記載されるのは、1990年ごろからといえるようである。
- 2 「行う」の意味での「持つ」の使用は第二次世界大戦以降(1945年以降)に広まったとする辞書があるが、この意味の成立自体はそれ以前であった可能性が高い。
- 3 「持つ」が「行う」の意味を獲得したのは英語が影響するという説があるが、確かなものとはいえない。
- 4 「持つ」が「行う」の意味を獲得したのは、「を以て」の存在が大きいといえる。
- 5 「国会会議録」においては、「会議を持つて」に「会議を以て」の意味のもの、また、その逆の、「会議を以て」に「会議を持つて」の意味のものが含まれている可能性がある。

補注

- (1) 2024年7月30日確認
- (2) <https://www.nhk.or.jp/bunken/summary/kotoba/uraomote/041.html> 2024年8月5日確認
- (3) c『岩波国語辞典第8版』(2019年・岩波書店)は、「③成り立たせる. 有する. 保つ.」の用例に「会議をー」がある。
- (4) 2024年8月6日確認。なお、6種類とは、「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、「日本語話し言葉コーパス」、「日本語日常会話コーパス」、「昭和話し言葉コーパス」、「名大会話コーパス」、「日本語歴史コーパス」である。
- (5) 2024年8月6日確認
- (6) 2024年8月7日確認。なお、「帝国議会検索システム」の会議録は、明治23(1890)年11月～昭和22(1947)年3月に開催された会議の発言を収める。
- (7) 2024年8月8日確認
- (8) 2024年8月8日確認
- (9) 『日本国語大辞典第二版』の「以て」の初出例は『西大寺本金光明最勝王經平安初期点』(830年頃)である。
- (10) 『日本国語大辞典第二版』の「持つ」の語釈「③自分の物とする. 所有する.」の初出例は『古事記』(712年)である。
- (11) ここでは、「会」「会合」なども含めて「会議」として述べる。

引用文献

藤原与一(1965)『一国語と文学の教室—ことばの歴史』pp.46, 福村書店
NHK 放送文化研究所(2044)『ことばウラ・オモテ』「もつ.

いれる. うつ.」

使用データベース・コーパス・辞書類

「国会会議録検索システム」、「帝国議会検索システム」、「日本語研究・日本語教育文献データ」「現代日本語書き言葉均衡コーパス」、「日本語話し言葉コーパス」、「日本語日常会話コーパス」、「昭和話し言葉コーパス」、「名大会話コーパス」、「日本語歴史コーパス」、「日本国語大辞典」(1972年～1976年・小学館),『日本国語大辞典第二版』(2000年～2002年・小学館),『基礎日本語辞典』(1989年・角川書店),『日本語基礎動詞用法辞典』(1989年・大修館書店),『広辞苑』初版～第七版(1955年～2018年・岩波書店),『大辞泉第二版』(2012年・小学館),『大辞林第四版』(2019年・三省堂),『岩波国語辞典第8版』(2019年・岩波書店),『三省堂国語辞典第七版』(2020年・三省堂),『旺文社標準国語辞典第八版』(2020年・旺文社),『明鏡国語辞典第三版』(2021年・大修館),『新明解国語辞典第八版』(2021年・三省堂),『例解新国語辞典第十版』(2021年・三省堂),『学研現代新国語辞典改訂第六版』(2021年・学研プラス),『旺文社国語辞典第十二版』(2023年・旺文社),『見やすい現代国語辞典第二版』(2023年・三省堂),『国語慣用句大辞典』(1977年・東京堂出版)

(令和6年9月11日受付)
(令和6年12月5日受理)

One Use of the Verb “Have” : *Kaigi wo Motsu* (“Have a Meeting”)

TAKAHASHI Yoshihisa

Bulletin of Japan Women’s College of Physical Education, 2025, 55, 11–18

In 1965, Yoichi Fujiwara pointed out the noticeable trend of the word *motsu* (“have”) being used to mean *okonau* (“conduct”) in phrases such as *kaigi wo motsu* (“have a meeting”). However, examples of this kind of usage can be found in Diet Proceedings from 1947, as well as in Imperial Parliament Proceedings a year earlier in 1946. Some dictionaries point out that this usage is a “post-World War II expression”, but from this perspective, it can be assumed that the usage was established before World War II ended in 1945. The meaning of the word in terms of this usage appears to have been introduced in Japanese-language dictionaries around the year 1990. There is a theory that the establishment of this usage was influenced by the English language, but it is by no means a settled matter. When looking at examples from the Diet Proceedings, there are instances of *kaigi wo motte* (an adjective phrase meaning “through a meeting”) and *kaigi wo motte* (the aforementioned “to have a meeting”) being used to mean either *kaigi ni oite* (“at a meeting”) or *kaigi wo okonatte* (“conduct a meeting”). In other words, it is possible to substitute the particle *wo motte* (“through”) with the verb-containing phrase *wo motte* (“have”). Therefore, it is conceivable that it had a significant influence on the verb *motsu* taking on the same meaning as *okonau*.

Keywords : *kaigi wo motsu*, have a meeting, hold a meeting, conduct a meeting